

31農総試第125-12号  
令和2年3月2日

関係各位

愛知県農業総合試験場長  
(公印省略)

病害虫発生予察情報について (送付)

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記

令和元年度病害虫発生予報第12号

担当 環境基盤研究部病害虫防除室  
電話 0561-62-0085  
内線 471  
ファックス 0561-63-7820

## 令和元年度病害虫発生予報第12号

令和2年3月2日  
愛知県

昨年12月以降、気温が高い状況が続いています。また、名古屋地方気象台2月27日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の平均気温も、高い確率が80%となっており、この状況が続くと見込まれます。ほ場内をよく観察し、病害虫の発生状況や各作物の生育段階等に合わせて防除を実施しましょう。2月17日発表のあいち病害虫情報最新情報で暖冬による病害虫発生の注意点を記載しましたので、参考にしてください。

### 普通作物

#### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
コムギ	赤さび病	やや多い	県全域	前年の発生量は平年並 3月の気温は高い 3月の降水量はほぼ平年並	± + ±

#### ・防除対策

##### [コムギ・赤さび病]

コムギ赤さび病は、12~20℃かつ葉面に水分があると、感染可能であることが知られています。多発した2015年、2016年は当年2月1日~3月31日の間に、日平均気温12℃以上かつ降雨のあった日数が4日以上記録されていました。今年は、2月13日の降雨がこの感染好適条件に該当しています。2月に感染好適条件が記録された状況は、2015年、2016年とよく似ていますので、今後の発生状況および気象予報に注意してください。

本病を効果的に防除するためには、茎立後～止葉抽出期に1回目の薬剤散布、開花期に赤かび病防除も兼ねた2回目の散布を実施すると効果的です。今冬は気温が高く推移しており、平年よりも生育が進んでいます。そのため、各ほ場の生育段階に合わせてワークアップフロアブルなどで防除を実施しましょう。

また、多肥は発生を助長するので、肥培管理を適正に行いましょう。

## 果樹

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
ナシ	黒星病	平年並	県全域	前年秋期の発生量は平年並 3月の降水量はほぼ平年並	± ±
モモ	せん孔細菌病	多い	県全域	前年秋期の発生量は多い 3月の降水量はほぼ平年並	+ ±
ブドウ	黒とう病	やや多い	県全域	前年の発生量はやや多い	+

### ・防除対策

#### [モモ・せん孔細菌病]

本日発表の「モモせん孔細菌病春季防除情報」を参考に防除しましょう。

#### [ブドウ・黒とう病]

本日発表の「ブドウ黒とう病春季防除情報」を参考に防除しましょう。

### ・留意事項

名古屋地方气象台2月27日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の平均気温は、高い確率が80%となっており、果樹の萌芽、発芽やりん片脱落など生育時期が早まる可能性があります。生育段階に合わせ、防除適期を逃さないように気をつけましょう。

ナシやモモでマルカイガラムシ類の発生が多いほ場では、ナシ黒星病、モモ黒星病、モモ縮葉病などの病害防除を兼ねて石灰硫黄合剤で発芽前までに防除しましょう。

前年秋にフジコナカイガラムシの発生が多かったカキほ場では、越冬虫数が多くなっています。発芽前にマシン油乳剤を丁寧に散布し防除しましょう。

## 野菜

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
キャベツ	コナガ	やや多い	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の気温は高い 3月の降水量はほぼ平年並	± + ±
タマネギ	白色疫病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の降水量はほぼ平年並	± ±
	べと病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の降水量はほぼ平年並	± ±
トマト (施設)	疫病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並	±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
トマト (施設)	灰色かび病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	葉かび病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	コナジラミ類	<b>多い</b>	県全域	2月下旬の発生量が多い 3月の気温は高い	++
ナス (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	すすかび病	少ない	県全域	2月下旬の発生量は少ない 3月の日照時間はほぼ平年並	- ±
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	県全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の気温は高い	- +
キュウリ (施設)	べと病	やや少ない	県全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の日照時間はほぼ平年並	- ±
	うどんこ病	やや少ない	県全域	2月下旬の発生量はやや少ない	-
	灰色かび病	やや少ない	県全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の日照時間はほぼ平年並	- ±
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	県全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の気温は高い	- +
イチゴ (施設)	灰色かび病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	うどんこ病	やや少ない	県全域	2月下旬の発生量はやや少ない	-
	ハダニ類	<b>やや多い</b>	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の気温は高い	± +
	アザミウマ類	<b>多い</b>	県全域	2月下旬の発生量はやや多い 3月の気温は高い	++

#### ・防除対策

##### [キャベツ・コナガ]

本日発表の「コナガ情報第2号」を参考に防除しましょう。

##### [トマト(施設)・コナジラミ類]

令和元年10月31日発表の「令和元年度病害虫発生予察注意報第7号」を参考に防除しましょう。コナジラミ類は、トマト黄化病の病原ウイルス(ToCV)を、タバココナジラミは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルス(TYLCV)を媒介します。気温の上昇に伴い増殖しやすくなりますので、黄色粘着板などを設置して発生状況に注意するとともに、発生量が多くなる前に防除しましょう。収穫終了後は、残さを外に持ち出す前に施設を密閉して媒介虫を死滅させましょう。

### 〔イチゴ（施設）・ハダニ類〕

マイトコーネフロアブルや気門封鎖型農薬等で防除しましょう。天敵や訪花昆虫を放飼している場合は、それらへの影響を考慮し農薬を選びましょう。

### 〔イチゴ（施設）・アザミウマ類〕

モスピラン顆粒水溶剤などで防除しましょう。例年、気温の上昇とともに発生量が増加します。施設開口部や吸気口の付近等発生しやすい場所をよく観察し、発生を確認したら速やかに防除しましょう。天敵や訪花昆虫を放飼している場合は、それらへの影響を考慮し農薬を選びましょう。

## 花き

### ・留意事項

夏秋ギクの採穂の時期になります。ウイルス病などの病害が発生していない親株から穂を採りましょう。

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/yougo.html>）を参照してください。

### 参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台2月27日発表）

〈特に注意を要する事項〉

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

〈予想される向こう1か月の天候〉

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、高い確率80%です。降水量は、多い確率40%です。日照時間は、少ない確率40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率60%です。2週目は、高い確率80%です。3～4週目は、高い確率60%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：10% 高い：80%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：30% 多い：40%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：30% 多い：30%